

森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしたところ

～美林連なる造林発祥の地“吉野”～



JAPAN HERITAGE

日本遺産 吉野

吉野町 下市町 黒滝村 天川村
下北山村 上北山村 川上村 東吉野村

吉野地域日本遺産活性化協議会

人が育んだ森

吉野では、「密植」した杉・桧を、人が大切に育林することにより、真っ直ぐで、色艶や香りの良い、美しい杉・桧の森が作りあげられた。



下多古村有林
川上村

日本最古の人工林。樹齢が250～390年生の杉、桧が育てられている。500年の歴史を誇る吉野林業の「歴史の証人」として保存されている。

黒滝村旧役場庁舎

黒滝村



明治末、黒滝郷材木組合の事務所として建てられた洋風木造建築。当時の林業家たちの活動の場を知る上で貴重な建造物。現在は、樽丸づくりの道具（県指定）が展示され、庭には和歌山市にあった黒滝材の貯木場の記念碑が移設されている。

前鬼集落跡

下北山村



役行者が従えていた前鬼・後鬼の子どもたちが住んだといわれる前鬼という集落は、明治半ばまで彼らの子孫による五つの宿坊があった。石垣などによって平坦地を造成した景観は、吉野の山地で営まれた集落の姿を伝えている。

割箸製作技術

全町村



割箸製作技術は、吉野の樽丸製作技術から派生した製作技術。樽丸では使えない端材を余すところなく使用するために割箸生産が考案された。現在でも杉・桧で良質の割箸【種類：小判・元禄・天削・利休・卵中】が生産されている。

人のこころが育んだ森の恵み

吉野の二つの森は、人々の身近にあり、寺社の建築用材として、生業の素材として、人々の信仰と暮らしを支えてきた。



金峯山寺本堂
吉野町

修験道の根本道場であり、幾度かの被災に際しても吉野の山地で育った材木が利用された。堂内の梨・躑躅の名木と伝える天然木の柱群は、吉野の天然林資源の豊かさの象徴である。

下市の三宝製作技術

下市町



吉野下市の里に受け継がれる技巧の矜持、伝統工芸三宝は、吉野地域で発達した曲物の技術を活かして作られている。三宝の名前の由来は、洞（台）の三方向に穴が開いているところからつけられたと言われている。現在下市町で製作される三宝は、国内シェアの90%を占めている。

大峰山寺

天川村



金剛蔵王大権現を本尊とする、国宝重要文化財の寺院。天武天皇元（672）年、役行者が苦行ののちに金剛蔵王大権現を感得し、蔵王堂を建立したのに始まると伝える。修験道の根本道場であり、我が国の中でも最高所級の場所に所在する重要文化財。

吉野水分神社

吉野町



吉野では天然林・人工林ともに豊かな水によって支えられていた。この豊かな水の配分に変わり古来より崇敬された神社である。

大地が育てた森

我が国屈指の多雨地帯である吉野では、往古からこの地に繁茂する豊かな天然の森が人工の森と共生している。



前鬼のトチノキ巨樹群
下北山村

前鬼宿坊から太古の辻方面へ少し登った所に、トチの巨木があり、中には幹回り10mを超えるものもある。このトチの木の実は栃餅の材料として重宝され、山里の伝統食として今も受け継がれている。

吉野川源流－水源地の森

川上村



吉野林業にかかせない豊かな雨によって育まれた吉野川最源流部に位置する原生林。吉野を代表する天然林の一つで、村によって保存されている。

栃餅

上北山村



上北山村の代表的な特産品。木灰汁で栃の果の灰汁抜きをし、手間暇かけて作っている。現在では、石灰などを混ぜて灰汁抜きをするところもあるが、上北山村の栃餅は純粋な木灰を使用している。まどりけなしの天然の味で、吉野の山地を代表する餅。

七滝八壺

東吉野村



水が涸れることなく滾々と流れ落ちる滝で、こうした水が豊かな吉野の森を育んだ。

森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～

我が国造林発祥の地である奈良県吉野地域には、約500年にわたり培われた造林技術により育まれた重厚な深緑の絨毯の如き日本一の人工の森と、森に暮らす人々が神仏坐す地として守り続ける野趣溢れる天然の森が、訪れる人々を圧倒する景観で迎えてくれる。

ここに暮らす人々が、それらの森を長きに亘って育み、育まれる中で作り上げた食や暮らしの文化が今に伝わり、訪れる者はそれを体感して楽しむことができる。

吉野の樽丸製作技術

全町村



酒樽の側板の材料となるクレと呼ばれる杉板を、マルワという竹の箨に詰め込む技術。江戸時代中期に酒を詰める酒樽の側板とするために始まったとされる。吉野で林産加工技術として発達し、その端材を利用した割筥製作技術も派生させた。日本の林産加工技術史上最も貴重な事例の一つ。

吉野葛

全町村



葛の根を精製して作られる葛粉の呼称。古くは修験者の食糧だったものを、村人が自家製し売ったのが始まりとされる。吉野の名産品とされ、吉野葛と呼ばれるようになった。吉野葛は、雪のように白く麗されたものが上質とされる。

柿の葉寿司

全町村



吉野川流域を代表する寿司。塩鯖を三枚におろし、薄くそいだ切り身を一口大に握った酢飯に乗せて、柿の葉で包んで押しをかけた寿司。近年では鮭も用いられることがある。海がない吉野では、熊野から運ばれた塩鯖をもちい、柿の葉は、波柿のものが良いといわれている。

構成文化財

1 金峯山寺 <small>(きんぷせんじ)</small> 本堂	吉野町	30 栃尾観音堂	天川村
2 本善寺	吉野町	31 河合の弓引き行事 <small>(八日薬師)</small>	上北山村
3 願行寺	下市町	32 笙の窟・銅造不動明王立像	上北山村
4 黒滝村旧役場庁舎	黒滝村	33 不動窟鍾乳洞	川上村
5 石仏	黒滝村	34 丹生川上神社上社	川上村
6 みたらい溪谷	天川村	35 七滝八壺	東吉野村
7 洞川 <small>(どうがわ)</small> 湧水群	天川村	36 丹生川上神社中社	東吉野村
8 前鬼 <small>(ぜんき)</small> のトチノキ巨樹群	下北山村	37 木霊神社	東吉野村
9 池神社と親子杉・夫婦杉	下北山村	38 木津川 <small>(きつがわ)</small> の祈禱念仏	東吉野村
10 シシンラン群落	上北山村	39 高見山	東吉野村
11 吉野川源流一水源地の森	川上村	40 山の神の信仰	全町村
12 三之公川 <small>(さんのかみがわ)</small> トガサワラ原始林	川上村	41 吉野山の街並み	吉野町
13 土倉翁 <small>(どくらおう)</small> 屋敷跡	川上村	42 洞川温泉街	天川村
14 「土倉翁造林頌徳記念」岸壁碑文	川上村	43 前鬼集落跡	下北山村
15 下多古 <small>(しもたご)</small> 村有林	川上村	44 吉野建 <small>(よしのたて)</small>	全町村
16 吉野川の開削跡	吉野町・川上村	45 吉野の手漉和紙	吉野町
17 吉野の天然林と人工林	全町村	46 下市の三宝製作技術	下市町
18 国栖奏 <small>(くまらう)</small>	吉野町	47 下市の神酒の口 <small>(かみのかぐ)</small> 製作技術	下市町
19 龍門寺跡と龍門滝	吉野町	48 吉野の樽丸製作技術	全町村
20 吉野水分神社	吉野町	49 割箸製作技術	全町村
21 丹生の太鼓踊り	下市町	50 陀羅尼助 <small>(だらにすけ)</small>	吉野町・天川村
22 丹生川上神社下社	下市町	51 黒滝白きゅうり	黒滝村
23 フロウの滝	黒滝村	52 いもぼた	天川村
24 河分神社 <small>(かわわけじんじ)</small>	黒滝村	53 朴 <small>(かしの)</small> の葉寿司 下市町・黒滝村・天川村・東吉野村	下北山村
25 高算堂 <small>(こうさんどう)</small>	黒滝村	54 春まなのめはり寿司	下北山村
26 鳳閣寺	黒滝村	55 栃餅	上北山村
27 天河大辯財天社	天川村	56 粽 <small>(ちまき)</small> とでんがら	川上村・東吉野村
28 大峰山寺	天川村	57 吉野葛	全町村
29 龍泉寺	天川村	58 柿の葉寿司	全町村



古来、奈良県の南半分を占める広大な山地は、良き野を意味する「吉野」と呼ばれていた。この地が吉野と呼ばれたのは、山地が常に緑豊かな森に覆われ、川によって地域が繋がり、人々が豊かに暮らすことができた。

吉野には、森と共に生きる暮らしが今も息づいている。

吉野地域日本遺産活性化協議会

事務局 〒639-3111 奈良県吉野郡吉野町上市 77-1

吉野町教育委員会事務局内
吉野地域日本遺産活性化協議会事務局

TEL0746-32-0190 FAX0746-32-8875